

# かわら版

2019.1月号  
北海道キャンプ協会

## 【巻頭言】

### 「学校現場で生かしたい！野外教育研究会での学び」

雄武町立雄武中学校 保健体育科 教諭 今 樹菜(旧姓：竹花)



今 樹菜(旧姓：竹花)

北翔大学の野外教育研究会にて野外教育と出会う(同時にキャンプディレクター2級を取得)。学生時代は、教員採用試験の勉強と野外スタッフを両立し、見事教員採用試験に現役合格。さらには高いリーダーシップを発揮し、他の模範となる活躍を見せ、学業成績表彰を受賞する。現在は、中学校教員として、日々より良い教育実践を目指し、奮闘している。

平成28年度に北翔大学を卒業した後、北海道オホーツク管内最北にある雄武中学校に赴任して2年が経ちます。保健体育科の教員を目指して北翔大学に進学し、当時2年次の教職必修科目であった「野外教育実習」という講義において、面識のない学生同士で班を結成し、数日間キャンプを行う機会がありました。その事前講義や装備品の準備が進む一方、なかなか「教員になるための学び」が実感できず、憂鬱な想いで当日を迎えたことを覚えています。重たいポストンバックにザックを背負い、必需品の帽子を被ってキャンプ場へ到着すると、いつもの講義とは異なる雰囲気の中で、キャンパーを名乗る面白そうな先輩方が明るく出迎えてくれました。非日常的な環境とこれから始まる未知の活動に、期待が一気に膨らんだ瞬間でした。振り返ると、そこから私にとっての「教員になるための学び」がスタートしたのだと思います。

また、登山やASE(班員と協力して問題を解決するゲーム)、ナイトハイクなどのプログラムも体験し、最終日のマインドクローッキー(数日間のキャンプを紙面でふり返る時間)では、胸いっぱい思いが私のペンを走らせました。

北翔大学の野外教育実習は組織キャンプとなります。必修の2年生がキャンプにおける生徒役に該当する「キャンパー」を務め、その後は有志で野外教育研究会に入ることが出来ます。3年生はキャンパーの担任役に該当する「カウンセラー」、そして4年生は役割ごとに管理職となってキャンプの全体を統括します。当初は消極的な姿勢で参加した私でしたが、教育実習などの一時期を除き、結局4年生まで活動させていただきました。研究会から離れていた時期は、朝から晩まで大学の教員採用試験対策講座を受講し、その後も図書館と自宅で勉強する大変な日々でした。採用試験を終え、再び研究会に戻った際には残された活動に対し、それまでに感じたことがないほどの期待と展望が膨らみました。そして、各役職や仕事内容は異なるものの、個々の力が組織に影響

を与え、仲間と同じ方向に向いながら熱くなれるこの実習が、より一層特別な時間と空間に感じられました。当然、教員採用一次試験では実習での直接的な学習内容は出題されません。しかし、当初私が感じた「教員になるための学び」を実感できなかったことは、採用登録後に子どもたちを目の前にすることで、その多くが「現場で生きる学び」であったことを実感しています。

現在は陸上部の顧問も務めています。陸上競技は基本的に個人競技ですが、部自体は組織的に運営しています。日々の練習内容、生活習慣、時間の管理、持ち物など、個々が責任ある役割を担います。そして、チーム力向上を軸に目標達成へと向かう組織の在り方は、野外教育研究会で培った貴重な財産です。また、屋外競技であるため、気象条件が結果を大きく左右させることもあります。時折、自然の厳しさになかなかならないこともありつつも、入念な準備で最大限のパフォーマンスを発揮する姿勢の大切さも野外教育と同様に感じています。さらに、本校の陸上部は、新生生の入部時や3年生引退の新チーム結成時に



地区中体連陸上大会

を實踐しています。知らぬ間に仲間と夢中になる経験を積み重ねることで、理想のチームづくりやその発展が期待できるからです。今日では選手だけでなく、その場の全員が楽しめる企画を立案し運営できるようになるまでに至りました。オフシーズンには、陸上競技の枠を超えてニースポーツで汗を流し、極寒の雪の中で走り回ることもあります。当時私が研究会で仲間と一緒に楽しんだ遊びを、現在では選手のトレーニングの一環として実践しているところですよ。今年度の雄武中陸上部は、北海道中体連大会において、男子4x100mRでオホーツク管内トップのタイムを叩き出し、男子砲丸投では優勝を果たしました。陸上競技は私にとって専門外の競技であるため、現在の技術指導力には限界を感じながらも、こうして活躍する選手たちを尊敬しています。加えて、部活動を主体的・対話的に運営していくことを楽しむ部員たちを誇らしくさえ思います。どうか、今後も雄武中陸上部の応援をよろしく願います。

最後に、初めてキャンプ場に到着した時に感じた『非日常的な環境とこれから始まる未知の活動に期待が一気に膨らむ』高揚感が、結果的に私の野外教育に対する考え方を変えてくれました。個人が役割を全うする中で仲間と協力し何かを形にしていく価値は、教職人生はもとより人としての「生き方」を考えさせてくれます。今後も学校教育現場の実践として、野外教育から学んだことを生かし、子どもたちに日々ワクワクするような感覚を持たせられる教員を目指したいです。

## 指導者養成便り

### キャンプディレクター2級養成講習会を実施しました！

講習会ディレクター 下川原清貴(はつと)

1月30日から12月2日に札幌市青少年山の家を会場に実施されたキャンプディレクター2級養成講習会は、参加者が5名と少し寂しい講習会にはなりましたが、参加者のキャンプにかける熱い思いと山の家スタッフのご協力により、無事に終了することができました。

2泊3日の講習では、キャンプディレクターの役割理解やプログラムの安全管理、プログラムマネジメントなど、ディレクターとして必要な技術や知識を学ぶとともに、経験豊富な講師や参加者同士の交流を通して、インストラクターとの違いや日本キャンプ協会がすすめる、より質の高いキャンプを提供するための行動について理解を深めることができました。

今回参加した5名は、いずれも野外活動及び体験活動等を仕事に持つメンバーだったことから、各々が抱える課題についても共通項目が多く、休憩時間も惜しんで話し合う姿が見られ、「学びあい」に溢れた講習会となりました。

北海道キャンプ協会では、今後も会員のスキルアップ及び指導現場の提供等を目的に各種講習会を開催していきます。キャンプ指導技術だけでなく、参加したメンバー同士の交流から生まれる効果も手に入れることができる養成講習会に、皆さんもぜひご参加ください。



↑ 野外教育研究会(登山山頂)  
← 学校にて ASE 実践中(魔法の絨毯)



キングから始まり、自分たちの寝床となるテントを張り、薪割りりと火おこしで野外炊飯を体験しました。

また、登山やASE(班員と協力して問題を解決するゲーム)、ナイトハイクなどのプログラムも体験し、最終日のマインドクローッキー(数日間のキャンプを紙面でふり返る時間)では、胸いっぱい思いが私のペンを走らせました。

北翔大学の野外教育実習は組織キャンプとなります。必修の2年生がキャンプにおける生徒役に該当する「キャンパー」を務め、その後は有志で野外教育研究会に入ることが出来ます。3年生はキャンパーの担任役に該当する「カウンセラー」、そして4年生は役割ごとに管理職となってキャンプの全体を統括します。当初は消極的な姿勢で参加した私でしたが、教育実習などの一時期を除き、結局4年生まで活動させていただきました。研究会から離れていた時期は、朝から晩まで大学の教員採用試験対策講座を受講し、その後も図書館と自宅で勉強する大変な日々でした。採用試験を終え、再び研究会に戻った際には残された活動に対し、それまでに感じたことがないほどの期待と展望が膨らみました。そして、各役職や仕事内容は異なるものの、個々の力が組織に影響

を与え、仲間と同じ方向に向いながら熱くなれるこの実習が、より一層特別な時間と空間に感じられました。当然、教員採用一次試験では実習での直接的な学習内容は出題されません。しかし、当初私が感じた「教員になるための学び」を実感できなかったことは、採用登録後に子どもたちを目の前にすることで、その多くが「現場で生きる学び」であったことを実感しています。

現在は陸上部の顧問も務めています。陸上競技は基本的に個人競技ですが、部自体は組織的に運営しています。日々の練習内容、生活習慣、時間の管理、持ち物など、個々が責任ある役割を担います。そして、チーム力向上を軸に目標達成へと向かう組織の在り方は、野外教育研究会で培った貴重な財産です。また、屋外競技であるため、気象条件が結果を大きく左右させることもあります。時折、自然の厳しさになかなかならないこともありつつも、入念な準備で最大限のパフォーマンスを発揮する姿勢の大切さも野外教育と同様に感じています。さらに、本校の陸上部は、新生生の入部時や3年生引退の新チーム結成時に

# 啓発活動・会員交流便り

## 宮城県キャンプ協会設立20周年記念 式典に、出席してきました。

NPO法人こども共育サポートセンター 長江集子(ニヤンちゅう)

11月2日19:00 苫小牧港出航!

宮城県キャンプ協会設立20周年記念事業の参加を目的とした4日間の旅が始まりました。

北海道キャンプ協会からは総勢10名が参加し、片道15時間のフェリーの長旅は私たちの親交を深める特別な機会となりました。

宮城県到着後は20周年記念式典と懇親会へ参加し、最終日には東日本大震災の被災地を訪問させて頂きました。



「私たちも被災者、そんな中で被災児童の支援キャンプを行った」  
式典のトークセッションの際に語られた一言です。  
この言葉を聞いてみなさんはどう思われるでしょうか...。  
震災後、子どもたちの日常を取り戻すために宮城県キャンプ協会の皆様は奮闘されたそうです。会場では涙ぐみながら語るスタッフの方々の姿がありました。

また、被災地訪問では、宮城県キャンプ協会副会長の木村様のご厚意により被災地の案内をして頂きました。何もない野原に降り立ち、ここで人も家も失ったこと、体育館に大津波が流れ込んできたこと、集落ごと高台に移ったこと等をご説明くださいました。

想像を超える事実にただ耳を傾けることしかできず、現実にご起こされたことなのだとしっかり心に刻むことにしました。

被災児童のキャンプの支援を続け5年、子供たちが震災前の笑顔に戻って来たというお話もありました。

これから歩む未来が子どもたちにとって明るい未来であることを強く願います。



## キャンプフェスタ2018を 実施しました

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

村上彩奈(あにゃー)

今年度で3回目を迎えた北海道キャンプフェスタ。

当日は薄曇時々小雨というお天気でしたが、ご家族で越しの方、会場の定山溪自然の村にご宿泊の方、施設の遠足など様々な方にお越しいただきました。年々ご参加いただける方が増えており、今年は延べ350名の来場でした。ありがとうございます。

火起こしブースでは大人も子供も熱中。懸命に火種を作るもなかなか発火に至らぬ少年のドラマもありました。

「あの子がこんなに頑張るなんて知りませんでした。」と家族の新たな一面を知る場面がありました。ぐるぐる棒まきパンブースでは、棒に巻いたパン生地を焦がさないようにじわじわ焚火にあてながら見つめる親子の姿が。自分で焼いたパンのお味は「サイコー!」だったそうです。

「このために来ました!」という来場者もいたランタンの使い方講座は、定山溪自然の村の職員の方々に、キャンプ道具で運動会など各ブースでは北翔大学生涯スポーツ部の学生の皆様に、そして写真展の写真出展などキャンプ協会の皆様に運営のご協力をいただきました!おかげさまでたくさんの方に楽しんでいただけたかと思えます。本当にありがとうございます!また来年!



## キャンプの写真展 大賞と会長賞が決定!

### 【大賞作品】



「いただきます」

キャンプネーム：あかみー

ぶっちぎり1位の得票で大賞受賞となりました。たくさんの自然のごちそうを目の前にした写真!かごもお箸も、自然素材で統一されていてとても素敵です。自然物で子どもたちと一緒に見立てあそびをするのも楽しいですよ♪堂々の大賞受賞、おめでとうございます!

### 【会長賞作品】



はじめてのキャンプ「夜まで砂いじり」  
キャンプネーム：ちゃんちゃん

会長の目にとまり会長賞を受賞したのは、タイトルどおり初めてのキャンプでの一幕。時間を忘れて砂いじりに夢中になっていることが一目で感じ取れます。この時の彼女の心にどんなワクワクがうまれていたのでしょうか。会長賞受賞、おめでとうございます!

## えぞっふで活動 しませんか?

北海道キャンプ協会には、次世代若手指導者団体として「えぞっふ」という組織があります。えぞっふでは、さまざまな活動を計画し、北海道におけるキャンプ活動の推進を図っています。若手ならではのエネルギッシュな企画や新たな視点での活動が実施されています!ぜひ皆さんもえぞっふに入り、一緒に活動しませんか??興味のある方は北海道キャンプ協会事務局までご一報下さい!!

【活動実績】北海道キャンプフェスタ、指導者交流会、日本キャンプミーティングでの発表、活動報告会等

【北海道キャンプ協会事務局】担当：安原、岩崎

〒047-0155 小樽市望洋台2-14-1望洋ヴィレッジ(特)自然教育促進会内

TEL: 0134(52)3240 FAX: 0134(51)5667

E-MAIL: office@hokkaidocamp.com

URL: http://www.hokkaidocamp.com/



発行：北海道キャンプ協会広報部

編集：徳田真彦